

公益社団法人 北九州市障害者相談支援事業協会

北九州市障害者基幹相談支援センター 広報紙

2019年 Vol.16

発行日 2019年7月10日

# 地域瓦版 ちいきかわらばん

## 「安心して生活できる地域社会を」

### トピックス1

令和元年度 北九州市障害者相談支援  
事業協会の取り組みについて

平成30年度活動実績報告について

### トピックス2

北九州市障害者基幹相談支援センター  
エッセイ ～Aさんの自立に向かって～

相談員 米村典子

居住サポート事業相談員：郷田 滋

公益社団法人 北九州市障害者相談支援事業協会 〒804-0067

北九州市障害者基幹相談支援センター 北九州市戸畑区汐井町1-6 ウェルとばた6F

TEL 861-3045 FAX 861-3095

編集・発行 北九州市障害者基幹相談支援センター

Mail [chiiki@shien-c.com](mailto:chiiki@shien-c.com)

発行人 内海 和久

URL <http://www.shien-c.com>

この度は、私ども公益社団法人北九州市障害者相談支援事業協会の広報紙『地域瓦版』をご覧いただきまして、誠にありがとうございます。

当法人は、北九州市より「障害者相談支援事業」、「障害者自立支援協議会事務局業務」、「障害者住宅入居等支援事業」、「小児慢性特定疾病児童等自立支援事業」、「地域再犯防止推進モデル事業」の5つの事業の委託を受けております。

各事業の概要をご紹介しますと、

- 「障害者相談支援事業」は北九州市障害者基幹相談支援センターの運営を行い、24時間365日の相談受付をはじめ、よろず相談の第1次窓口としてきめの細かい対応を実施し、また障害者虐待防止センターの役割として、24時間体制で虐待通報を受理し、北九州市並びに各区と連携して虐待防止に関わる対応を行う。
- 「障害者自立支援協議会事務局業務」は、障害のある人達が暮らしやすい社会の実現に向けて、事務局として同協議会の主体である北九州市と協働し、また市内の各委託事業所とも連携を図り、地域課題等の抽出や検討を行う。
- 「障害者住宅入居等支援事業」は、居住サポートとして民間の物件探しのお手伝いや入居に必要な手続き等のお手伝いをはじめ、生活上の課題に応じた対応や関係者との調整、不動産事業者へ家主への理解促進を行う。
- 「小児慢性特定疾病児童等自立支援事業」は医療や福祉に関する課題について、慢性的な疾病を抱えている本人や家族、また関係者からの相談支援を行うとともに必要な情報の提供を図る。また医療や教育機関との連携や、関係機関の支援活動への協働参画、小児慢性特定疾病への周知と理解のための普及啓発活動を図って、本人のライフステージに応じた途切れのない支援を行う。
- 「地域再犯防止推進モデル事業」は触法障害者の立ち直り支援を通じた再犯防止推進事業として、犯罪行為を行った軽度の知的障害等のある人に対して、早期に行政、福祉、司法をはじめとした関係機関が連携して適切に関わり、再び罪を犯すことなく社会生活を送ることができるような支援を行う。

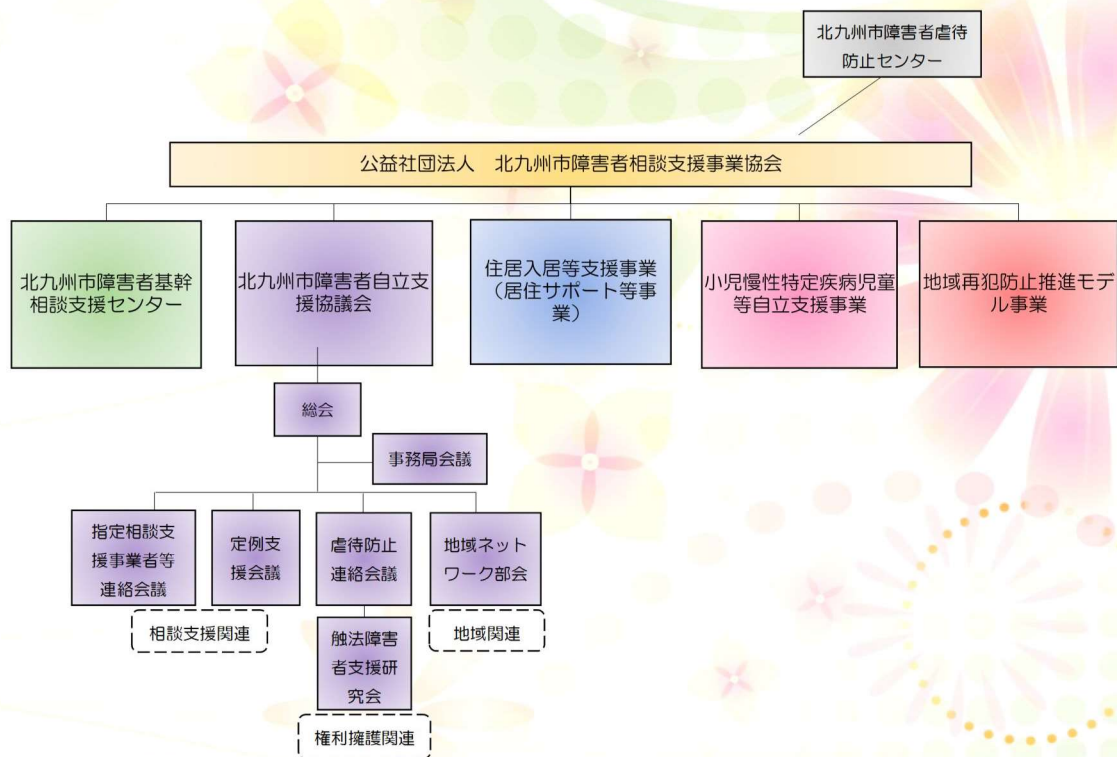
という取り組みを行っています。

障害のある人や家族などに対して、私たちは支援と称して何ができるのか。或いはそのために何を考えて、何を見据えていかなければならないのか。知識や経験が必要なのは言うに及ばず、私たちには、相手のことを考えて周りを見据えながら自らが動く「思慮」と、また固定観念や偏見、世の主流意見等に惑わされることなく、人や物事への善悪の「分別」をもつこと。

即ち相談者のいろいろなことに思いを巡らしてみることのできる感性と謙虚さがとても大切になります。

今年度も各事業の重要性を全職員が真摯に受け止めて、それぞれが当事者の立場を重んじ、適切で且つ最後まで丁寧な支援を実践して、地域の障害者福祉の推進に寄与していきます。

# 公益社団法人障害者相談支援事業協会の事業について



4名の職員が入職し、25名になりました！ よろしくお願いたします！



# 昨年度の相談実績

当センターでは、日々様々な相談を受け付けています。

どんなご相談を受け付けているのかをH29、H30年度の統計をもとに少しだけご紹介させていただきます。

(小児慢性特定疾病児童等自立支援事業、住居入居等支援事業を除く)

## 1.新規受付相談者

利用者	H29 件数	H30 件数	利用者	H29 件数	H30 件数	利用者	H29 件数	H30 件数
本人	77	92	医療	9	15	教育機関・施設・作業所	31	39
家族	80	83	その他の行政機関	10	24	福祉団体・その他	17	18
区役所	20	16	在宅介護サービス	5	2	計	249	289

## 2.障害種別

障害内容	H29 件数	H30 件数	障害内容	H29 件数	H30 件数	障害内容	H29 件数	H30 件数
視覚	1	3	呼吸器	0	1	身・精重複	5	10
聴覚・平衡	5	1	膀胱・直腸	1	1	精神障害	97	109
音声・言語	0	0	小腸	0	0	身・知重複	5	15
肢体不自由	23	40	知・精重複	9	14	発達障害	9	10
心臓	0	1	知的障害A	9	11	高次脳機能障害	0	0
腎臓	3	3	知的障害B	77	66	不明	5	4
						合計	249	289

### 3.利用者の年齢

年齢層	H29		H30		年齢層	H29		H30		年齢層	H29		H30	
	男性	女性	男性	女性		男性	女性	男性	女性		男性	女性	男性	女性
乳幼児期	1	1	2	2	20～29歳	26	10	14	22	60歳以上	20	6	15	11
小学生	5	0	7	0	30～39歳	15	10	15	17	不明	37	31	29	39
中学生	5	1	4	3	40～49歳	20	11	20	23	小計	165	84	141	148
15～19歳	9	6	16	9	50～59歳	27	8	19	22	合計	249		289	

### 4.相談内容

(H30)

内容	自立に関する こと	生活の仕方 に関する こと	仕事に関する こと	金銭に関する こと	対人関係に 関する こと	医療に関する こと
件数	832	936	2,113	2,893	4,882	3,996
内容	余暇に関する こと	制度利用に 関する こと	住宅に関する こと	教育に関する こと	その他	合計
件数	643	6,235	209	451	873	24,063

(H29)

内容	自立に関する こと	生活の仕方 に関する こと	仕事に関する こと	金銭に関する こと	対人関係に 関する こと	医療に関する こと
件数	764	859	1,939	2,654	4,480	3,671
内容	余暇に関する こと	制度利用に 関する こと	住宅に関する こと	教育に関する こと	その他	合計
件数	586	5,723	193	415	802	22,086

### 5.相談支援件数

H30年度の相談件数は、H29年度より2000件増の24,063件でした。

これからも障害手帳の有無に関係なく皆さんからの様々なご相談を丁寧にお受けいたします。

まずはお気軽にご相談ください。

<開所時間/月曜日～金曜日>

9：00～17：45（土、日、祝祭日、年末年始を除く）

## エッセイ～Aさんの自立に向かって～

### 基幹相談支援センター、居住サポート事業のかかわりを通して



相談員 米村 典子



Aさんと当センターとの関わりは20年前に遡ります。当時は母親との2人世帯で、母親以外の人は誰とも接触なく、家事手伝いをしながら生活をしていました。母親が高齢となり、本人の将来を心配した母親と叔母から相談がありました。

Aさんは障害福祉サービス（就労継続支援B型）事業所に通っていましたが、叔母の紹介で結婚したものの、夫が仕事をしなくなったことが原因で経済的に苦勞したAさんは離婚の意思を示し、結婚生活に終止符を打つことになりました。この間に母親は他界し、叔母も遠方に住んでいるため、頼れるのは事業所職員と当センター職員だけでした。

まずは、安心できる生活の場を確保するために、当センターの居住サポート支援事業への相談、協同でのサポート体制を整え、住まいの確保から生活を整えていき、Aさんの新たな生活が始まりました。Aさんの収入は障害基礎年金と事業所工賃でしたが、無駄使いはせず毎月貯蓄までできるという自立した生活を送る一方で、これまでの生活の中で起きた母親の死去や離婚はAさんの不安と混乱は大きくし、単身生活を送るうえでも多くの支障がありました。今まで一人で生活をしたことがないAさん、もともと人との関わりは苦手でしたが、物を投げる、壊す、叩く、蹴る大音量を流し近所から迷惑通報がある等の感情表現で私たちに訴える日が続きました。新たな就労継続支援B型事業所の利用でも同じような表現しかできず、自分の考えや思いをうまく伝えられず、トラブルの原因や助けてほしいなどの気持ちも「事業所をやめる」ということしか言えず、利用定着するまでに5年かかりました。

そのAさんと私は1年前より関わるようになり、支援をする中でAさんの望む生活とは何かを念頭に、関係機関と連携を図りながら、自立を阻むことなく「できること」に目を向け、自信を促していきました。Aさんは時間をかけ、自分の気持ちに向き合い、気持ちを手紙に文字で表現することができるようになり、自分に合ったコミュニケーション方法を見つけることができました。

私たちとの関係を築くことができるようになり、仕事も生活も安定してきたため、計画相談へ移行し、相談支援専門員はAさんの良き理解者となっています。また、移行後に本人から相談支援専門員へ「引越したい、環境を変えたい」と相談があり、再び当センターの居住サポート事業で転居支援を行い、希望が実現しました。現在も就労継続支援B型事業所、計画相談、居住サポート事業が連携し、支援を行っています。

Aさんは、暴力が悪いとは理解していても、怒りや不安、寂しさ、悔しさの感情を抱いたときに衝動が抑えられなくなります。一人で抱え込まずに周りを見渡すと助けてくれる人がいることを本人に伝えながら、本人の幸せの実現にむけて今も関係者で見守り、応援しています。Aさんもそのことをしっかりと受け止め、自身で道を選択し、迷ったときは相談しながら最終的には自己決定し、自立した生活を歩んでいます。



## 居住サポート事業

相談員 郷田 滋



居住サポートとの関わりは5年前、当時のAさんは離婚することになり、新たな生活を始めるお手伝いをするようになりました。叔母が遠方のため、本人の意向を聞きながら当センターの相談員と居住担当で今後の住まいについて一緒に考えました。初めての一人暮らしで不安もあると思うので、何かあればすぐに駆けつけられる範囲、すぐに入居可能な物件を探すことを決め、物件探しから物件の内覧、契約時の同行、单身生活をする上で必要な電化製品の購入のお手伝いもしました。

单身生活を始めた頃は生活に対する不安や寂しさで、しばしば元の家に戻りたいと言っていたこともありました。

あれから5年が経ち、建物のにおいに対する拘りや関係者、近隣との間で騒音トラブルもあり、関係機関を含め転居を検討することにしました。転居にあたって一番の問題は保証人のことでしたが「ここで気分転換も必要」と感じ、長年本人を支えてくれた元支援者の理解があり、再び居住探しをすることになりました。

Aさんの希望を聞き、生活圏内で利便性も良く、音漏れの少ない鉄骨の物件が見つかり、すぐにそこに住むことが決まりました。今回も転居に伴う諸手続きにも同行しました。次第にAさんと話す機会も増えてきて、こちらからのお願いをしてみました。『居住サポートでは、居住探しに困っている人を不動産屋さんと協力し、時には無理なお願いもしながら居住探しの手伝いをしています。建物を傷つけたり近隣とのトラブルがあるとこれから家を探し辛くなる。嫌なことがあっても少し我慢をして欲

しいことと我慢ができない時にはすぐに相談して欲しい』と…

Aさんは、笑みを浮かべゆっくり首をたてに振ってくれました。

生活の基本はまず住むところから始まります。

居住サポートでは入口の入居支援だけでなく相談者が安心して住み続ける居住を探していく必要があります。

これからもAさんが新たな生活をしていくなかで思い通りにならないことがあっても「まあ、いいか」と思える気持ち芽生え、自分らしく元気に過ごしていくことを願っています。



# 「2019年 北九州市小児慢性特定疾病児童等自立支援事業 講演会」を開催しました。

6月15日（土）講演会当日のお天気は、朝から雨…会場の「子どもの館 子どもホール」は、黒崎駅から直ぐの所ではありますが、雨の中ご参加の皆さんの足元が気になりながら開演を待ちました。

講演1の檜垣教授は、小児慢性特定疾病児童等（以下、小慢）自立支援事業について医療・行政・教育・福祉・地域などが連携している実際の取り組みの様子や、全国の取り組みのあり方など分かりやすく説明してくださいました。そして、この講演会と同日、認定NPO法人ウ・ファミリエが実施している「学習支援ボランティア研修会」の第1回が愛媛大学医学部本館で開催されており、檜垣教授の講演中、愛媛大学大学院教育学研究科の榎木准教授とスカイプを使って通信という場面もあり、とにかく盛沢山の内容でした。

講演2の猪狩教授は、病弱教育の歴史（北九州市の先駆的歴史にも触れていただきました）や現状、実態、そして、課題など丁寧に分かりやすくお話していただきました。「どの子ども豊かに…病気だからこそ必要な教育がある」という言葉から、先生の思いとその意味を感じ取ることができました。そして、改めて病

弱教育の意義を考える機会となりました。子どもたちの成長過程における教育の必要性は、病気の子どもたちにとっても同じということ…多職種連携も含めた取り組みが必要であるということも痛感しました。

檜垣教授と猪狩教授のご講演の様子と内容から、お人柄も垣間見え、笑顔と穏やかな熱意が、会場の雰囲気をも優しく包み込んでいました。

慢性的な病気をもつ子どもたちのことと小慢自立支援事業について広く知っていただくこと、そして子どもの自立と成長を支える「教育」について情報を共有し、一緒に考える機会となることを願い開催した講演会は、今後、展開していく学習支援推進に向けて、たいへん貴重で有意義な講演会となりました。



## ホームページのご案内

北九州市障害者基幹相談支援センターと北九州市障害者自立支援協議会のホームページを随時更新しております。法人や各種研修等のご案内をしています！

### 北九州市障害者基幹相談支援センターホームページ



運営法人の案内や各事業からのお知らせ、研修案内などを随時アップしております。

北九州市障害者基幹相談支援センター

検索

### 北九州市障害者自立支援協議会ホームページ



協議会の概要や地域支援研究会の開催案内などを随時アップしております。

北九州市障害者自立支援協議会

検索

## アクセス&マップ

### JR

JR鹿児島本線「戸畑駅」下車 南口から徒歩1分

### 車

北九州都市高速「戸畑ランプ」から約5分、

「枝光ランプ」から約10分

### バス

市営バス「戸畑駅」行き「戸畑駅」下車

西鉄バス「戸畑渡場」or「戸畑駅」行き「戸畑駅」下車、徒歩1分



暑さも日々増していき、本格的な夏の季節もすぐそこまで来ているようです。さて、広報紙は今年度第1回目の発行です。第1回目ということで、職員のご紹介もさせていただきました。ぜひ、ご覧いただき、私たちがより身近な存在に感じていただけたらと思います。今後さらに読みやすく、市民の皆様様に親しみやすい広報紙を目指しますので、次号もぜひ、ご期待下さい。

編集：大脇、小田、橋本

編集  
後記